

今後の国民スポーツ大会の在り方を考える有識者会議 提言(素案)に対する有識者会議委員 意見聴取結果

■「前文」について

1	<p>下線部を修文依頼 「本会議」としては、国スポの主催者である開催自治体の負担軽減や徹底的なコスト削減を大前提として、国スポが、ふるさとを代表し全国から集う若者の力を結集し、「ふるさと」そして「日本全体」を元気にする創設時の精神や、素晴らしい伝統は維持しつつも、「ワクワクし、人々を湧き立たせる」魅力ある大会となるよう、下記の観点から抜本的な構造改革を行うべきである旨、提言する。</p>
2	<p>内容として、文章が分かりやすく伝わりやすい。「ふるさと」がキーワードとなっているが、とても人にとって、大事なところなので良いと思いました。「ふるさと」を大事にする国民はほとんどだと思います。また、スポーツが私たちが元気にすることは間違いありません。この提言は、良くできていると思いました。</p>
3	<p>スポーツは、真剣勝負(国内最高水準)、参加選手のモチベーション(国際大会・全国大会出場選考大会としての位置づけ)により見るものを魅了し、多くの観客は、この真剣勝負を体感するために会場で観戦し、メディアを通じて視聴する。 この魅力に開会式等でのエンタテインメント性が加われば、スポーツの祭典(フェスティバル)として多くの観客が集まり、参加選手の満足度向上や開催する地域の活性化、そして大会をささえる企業の協賛意義創出により自治体の負担軽減と持続的な開催を両立し、この大会を通じた交流人口が増幅し参画する価値が拡充する。 *エンタテインメントも国内最高水準+ご当地出身者(ふるさと志向)が好ましい。 唯一無二の世代を横断した総合競技大会かつ各年代別の全国大会としての位置づけも必要。→学校・家族の応援が増え地域の魅力発信につながり、リピーターが増える。(宿泊・観光・飲食・輸送との相乗効果) グローバルの視点から、国際招待チーム(毎回2~3カ国程度)を招くー将来のインバウンドへの取組。</p>
4	<p>スポーツの楽しさから入り、基本法前文も想起させる導入になっていること、素晴らしいと思います。広くお読みいただくことを考え、やや難しい表現(不易である、など)は言い換えてもよろしいのではと思います。</p>
5	<p>・書き出しの文章ですが、「楽しく、おもしろい」という表現はアスリートのことを考えるとあまりにも柔らかすぎると思います。「スポーツは、目標に向けての努力と達成感、そして観戦する人をドキドキさせる最高のイベントであり、よって人々を、社会を元気にする力を持つ。」というような表現は如何でしょうか。 ・また「国民スポーツ大会」の定義として「国スポ」、「本大会」又は「大会」とありますが、「国スポ」に統一する方が読み易いと思います。</p>

■「大会の理念(根本原則)」について

1	<p>下線部を修文依頼 国民スポーツ大会は、我が国最高の総合競技大会として、ふるさと(郷土)を代表する選手が、持てる力を存分に発揮し、あるいは競い助け合いながらスポーツを楽しむ集いである。自らのプレーを通じ、仲間たちとの友情を深め、大会をみる人やささえる人を巻き込む集いである。大会にかかわる多様な主体その多様な活動により、開催地はもとより、我が国の人づくり、地域づくりに貢献し、社会課題の解決にも寄与するなど、スポーツを中核にしたする人、見る人、支える人の誰もが主役となる国民の祭典である。この理念に基づき、以下に示す論点とともに委員の意見も踏まえながら引き続き検討することが必要である。</p>
2	<p>トップアスリートと地域スポーツの好循環は、佐賀県が目指している姿そのものであり、賛成。</p>
3	<p>前文同様、良いと思います。</p>
4	<p>出場する選手や関係者には、地元出身ではない人も多い。「ふるさと(郷土)」という言葉を使うことにより、都道府県を代表する意味が狭められ、違和感を感じる人もいるのではないかと。「郷土愛」というよりは、各都道府県がそれぞれの良さを発揮しあう場所として捉えられるような言い回しができると、より多くの人に関係しやすくなり、時代に即したものになるのではないかと。</p>
5	<p>正直なことをお伝えしますと、「トップアスリートと地域スポーツの好循環」というところが、その下の文章に比べて正直ピンとこない文言だと感じています。下の細かな文章には納得感があるのですが、上の「」の部分は検討が必要かと思います。</p>

6	トップアスリートにも郷土があり、所属している地域(住民票があっても)でも本人達がどちらか選べること。(片寄らないために)
7	表題と入り方に少し違和感があります。国スポを生かしていく基本目的は、佐賀国体の構想にも使われたように、「スポーツの本質と価値を生かし、私たちの生き方と地域、社会を豊かにする」ことではと感じます。このため地域でスポーツ参画を促し、振興の核とする機会が国体ではと考えます。さらに・人々が地域で世代を超えて、見る・支えるの立場も加えてつながることで、地域社会のしなやかな強さが生まれ・デジタル化やツーリズム、産業化などで地域外ともつながることで、社会の未来が創られるのだという点を、流れの軸としてご勘案いただければと思います。
8	何をもって「我が国最高の総合競技大会」とするのかを明確にするためにも、大会の理念に「国民スポーツ大会は、トップアスリートも参加する我が国最高の総合競技大会として」と「トップアスリートも参加する」ことを明記したほうがいいのではないかと思います。また、開催地の負担軽減など「持続可能な大会」とすることも理念に盛り込んだほうがいいのではないかと。
9	【大会の理念(根本原則)】との見出しからすると、その下の「1. 開催の時期及び開催期間」が根本原則の「1」のように思ってしまう人もいないかと思いません。そのような誤解を回避するために、「1. 開催の時期及び開催期間」の上の見出しとして、【各論】とか【具体的課題・目標】を付けた方が良いと思います。

1 「開催の時期及び開催期間」について

1	下線部を修文依頼 ○ トップアスリートが参加する我が国最高水準の大会の実現と開催都道府県の負担軽減を図るために、JSPOが主体となって、開催都道府県、中央競技団体とも調整の上、開催時期及び開催期間を柔軟に設定し競技会を分散化することが望ましい。これにより、トップアスリートが参加し易い環境を整えるとともに、開催地における宿泊・輸送などの機会の平準化を行うことにより、これまで以上の経済効果が期待できるものと考えられる。 ○ (略) ○ なお、開催時期等の具体的な在り方は、今後全国知事会と十分に協議して決めること。また、大会ごとの具体的な開催期日等は開催都道府県の意向に沿って、JSPOが主体となり中央競技団体とも調整の上、決めることが必要である。
2	具体的な開催期日等については、行楽シーズンと国民スポーツ大会開催が重なることも想定されることから、宿泊場所や交通機関の確保など開催自治体の課題もあるため、都道府県のみならず会場地都市自治体の意向も踏まえるよう十分留意していただきたい。
3	「中央競技団体とも調整の上、開催時期及び開催期間を柔軟に設定し競技会を分散化することが望ましい」とあり、総論としては賛成するが、過度に分散化しすぎると、「国民スポーツ大会」という一つの大会としての括りが失われ、結果的に、国民スポーツ大会 があやふやなものになる懸念がある。 たとえば、本大会は「9月から10月中旬の1か月半の中で行う」など、一定の幅をもったうえでの、会期の柔軟性を考えることも検討していただきたい。
4	開催時期は、高校生であれば全国高等学校総合体育大会(インターハイ)が7月・8月なので、これまで通り、9月・10月開催で問題はないと思います。
5	各競技団体との調整により、この大会を主要大会(オリンピック、ワールドカップ、アジア大会その他全日本大会等)の選考大会として位置づけ、事前にスケジュール化することでトップアスリート自身も目指し・参加しやすい環境をつくる。 競技毎に(ある程度ブロック内で)聖地化を少しずつ進めていく事も検討(国スポにおいて国内最高水準の選手が国内最高水準の施設で最高のパフォーマンスを見せ、観客がそれを堪能する)しつつ、その他競技は開催日程の分散化により地域(ブロック)を固定しながら、宿泊・輸送利用の平準化を図り、これまで以上の地域への経済効果を期待する。
6	開催時期を柔軟に変えるという点に関しましては、開催地としてその方がいいということであれば致し方ないと思いますが、国スポをこの時期に行っているという、理念に書かれていた国民の祭典という感じはなくなると思います。ですので、他の大会との区別がは更になくなると思いますし、他競技との触れ合いや年代別の交流というところはなくなると思います。かつ、それぞれのNFの大会と何が違うのかというところをはっきり見えてこなければ、スケジュールが空くからといってトップ選手は必ずしも参加する選択はしないと思います！
7	温暖化により屋外で行う競技は比較的涼しい時期に行うのが最適と思う。冬季大会は世界大会にもぶつかる可能性と大事な大会の調整など各競技団体とヒヤリングが必要と思う。

8	柔軟性は大切ですが、開催時期の分散が全文を通して強調され過ぎているようにも感じます。分散を追求し過ぎると統一感が失われる懸念への、付記もあるとよろしいかと思えます。五輪改革では、既存施設の使用とこれに伴う開催場所の分散は容認したものの、統一感の喪失を恐れて時期の分散には踏み込んでおりません。国体改革においても、開会式などの象徴的な重要性はうたっておくべきかと思えます。
---	---

2 「開催の頻度」について

1	良いと思います。
2	年齢別(成年・青年・少年)に開催日程をずらし、進学(進級)スケジュールに対応し競技を開催することで解決を図る。
3	毎年開催は全く問題ないと思います。 ただし、トップ選手の毎年の参加は見込めないと思います。そこをどう考えるかで開催頻度は変わってくると思います。私個人的にはトップ選手がマストで参加を推奨していないので、結論としては毎年開催でいいと思っています。
4	学生期間は短いので毎年行うに賛成です！

3 「都道府県対抗と総合成績」について

1	下線部を修文依頼 ○ また、算出方法がわかりにくいと、国民の総合成績への興味・関心が高まっていないとの指摘や開催都道府県によっては、一時しのぎで場当たりな選手強化(主に成年選手の勧誘)をしていると見られる県外選手を成績のためだけに短期間所属させるという状況も見受けられる場合がある旨の指摘もある。 ○ (略) ○ 都道府県対抗の在り方や総合成績の在り方についてによる順位づけの要否も含め、引き続き全国知事会との間で具体的な検討を行うことが必要である。 ○ (略) ○ 総合表彰については、本大会を年間を通じた大会に改革することを踏まえ、例えば、毎年1月頃に我が国スポーツ界の象徴である「ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエア(東京)」等において国又はJSPOが中心となって実施するなど、総合閉会式とは別に行うことも柔軟に検討することにより、表彰式の運営の効率化を図る必要がある。
2	良いと思います。
3	<当道府県対抗を継続する前提で> ・得点基準は競技成績等誰にもわかりやすい方式を見える化。 ・得点経過は、毎日地元放送局等で最新順位を共有する。(結果だけではなく) ・競技点に加え、最多観客・応援県(チーム)点を加算する。 ・地域青少年やシニアスポーツへの貢献点。 (競技が終わった選手による〇〇スポーツ教室への参画等) ・参加選手の都道府県分けは、現住所ではなく出身地制とする。 ・SAGA国スポのウルフ選手のように開催県選手団に有名選手を入れる。
4	総合表彰は続けていいと思うが、点数計算が分かりにくい、見ている側が興味をもったり分かりやすいものにしていくべきだと感じます。 オリンピックのメダル数のような分かりやすいものではダメなのではないでしょうか？
5	賛同します
6	・上から4つ目の〇のところですが、すべての協議で都道府県対抗形式をとる必要性はないと思います。例えば400メートルリレーのように、オリンピックでも「国」の対抗であり、このような団体競技は都道府県対抗に馴染みやすいと思いますが、個人競技は、都道府県から離れて1位、2位を決めていくとともに、表彰することが良いと思います(そうなっているのかも知れませんが)。その観点からは、「都道府県対抗形式」が国スポに相応しい唯一の形式であるというように読まれないようにする工夫が必要だと思います。 ・下から5つ目の〇のところの「都道府県の戦力均衡を図る観点で」という文章が気になります。各都道府県が競い合うための強化推進は理解できますが、「戦力均衡」を目的とすることは国スポの目的として相応しくないと感じます。

4 「開催地及び競技施設」について

1	<p>下線部を修文依頼</p> <p>○ 大会は、開催地の魅力が全国に発信される機会となることはもとより、開催地におけるスポーツ環境の充実や地域課題の解決、経済の活性化等様々な効用がもたらされるよう、全国持ち回り方式を維持することが望ましいとの意見がある一方、開催に意欲を示す都道府県の立候補制についても検討することが望ましいが望ましいという意見もある。</p> <p>○ (略)</p> <p>○ (略)</p> <p>○ 単独の都道府県で競技会を開催することが困難な場合、例えば、大会を複数の都道府県で開催することや、競技によっては特定の施設に開催場所を固定化(聖地化)することにより、施設整備の負担を軽減することが必要である。その際、大会開催にかかる経費の分担について、JSPOと各都道府県による丁寧な議論が必要である。</p>
2	<p>開催地の固定化(聖地化)については、大会運営に係る体制整備など会場地都市自治体にも影響を及ぼすため、開催都道府県のみならず会場地都市自治体の意向も踏まえるよう十分留意していただきたい。</p>
3	<p>「開催地の固定化(聖地化)については、全国知事会及び当該固定化(聖地化)する場所の所在する都道府県と十分協議の上決定することが必要である。」としている。特定の競技について、開催地の固定化は賛成するが、結果として、施設・宿泊先が充実している大都市部に多くの競技の固定先が集中することがないように、協議の際には、総合的な視点で議論することが必要ではないか。</p>
4	<p>基本は、輪番制で良いと思います。ただし、経済効果を考えるならば、立候補もありだと思えます。それ以外は、この内容で良いと思います。</p>
5	<p>地方におけるスポーツ施設の改修や設立は大きな大会が実施されることを機に行われることが多い。そのため、国スポを開催することを機に地域におけるスポーツが活性化し、県民を元気にする機会につながることを価値を認めたいと、積極的に都道府県が立候補できること、また意欲があり財政的に困難な地域に対してのサポートができることが望ましいと考える。</p>
6	<p>施設の要求水準の達成と設置・改修負担の相反する要素の両立を満たすうえでは、広域(ブロック)開催により、エリア内で基準を満たす施設を持続的に利用するなど、ニーズと負担のバランスを図る。国内最高水準のアスリートがそのパフォーマンスをいかに発揮し、多くの有償で来場する観客を魅了し、大会や地域に経済的にも波及を及ぼすという観点からは、必要要件を満たしていない競技施設での開催は、大会のレベルを維持するうえで難しいと考える。一定の機能を持つ施設においては、少年カテゴリー(新設の老年カテゴリー等があれば)の競技に有効活用すべき。</p>
7	<p>費用負担の面が一番重要課題だと思うので、施設については世界基準などの高いレベルを求めなくてもいいのではないのでしょうか？</p> <p>聖地化については、やはり競技によって毎回会場を準備できない場合は私個人としてはありだと思えます。その場合は、最終的にその競技団体との意見交換でご理解いただけるかが大切だと思います。</p>
8	<p>開催地の固定化(聖地化)は、放送・配信媒体の参加の観点からは、是非、前向きに検討すべき事項であり、その前向きな点に鑑み、例えば「国スポの放送・配信を可能とするという観点からの前向きに検討する価値のあるものであり」というような説明を追加することをお勧めします。確かに各都道府県での開催により、各地方の活性化もありますが、それも大会期間中の限定的なものです。</p>

5 「総合開・閉会式の在り方」について

1	<p>下線部を修文依頼</p> <p>○ 当該基準の運用は、開催都道府県の実情に応じて柔軟に対応しているところであり、開催都道府県が迷うことなく対応できるよう、例えば、収容人数が3万人に満たずとも開催都道府県が総合開・閉会式会場として適切であると考えられる場合にはそれを認めることができるよう最低人数に代えるなど、実態に即した基準とすることが必要である。</p> <p>○ (略)</p> <p>○ 困た、住民・アスリートとの触れ合いの場としての視点を持ちつつ、運営の簡素化や屋内開催(文化施設を含む)の可能性などを検討する必要がある。</p> <p>○ このため、総合開・閉会式における式典は、新たな大会の理念に基づくものとして、屋内開催(文化施設を含む)を可能とすることや式典の運営を簡素化するなど、開催都道府県の裁量が認められる見直しが必要である。</p>
---	---

2	総合開会式及び閉会式に費用と労力が一番かかるので、効率化や規模縮小等が盛り込まれているの良いと思います。
3	<p><式典会場が3万人未満でも開催可能とするべき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催都道府県に選択権を持たせ、屋内開催可とする。 ・式典参加者(都道府県選手団)は代表者のみとする。(SAGA2024で実施済み) <p>* 入場行進の簡素化により、長時間待機が不要となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式典プログラムの改変により、後半はエンタテインメント(コンサート等)でアスリート・観客が共に楽しむことができるようにする。(セキュリティの担保は前提)
4	屋内開催OKは賛成です。その開催都道府県のご要望に沿う形でいいのではないのでしょうか？ただ一方で総合開会式が、オリンピックの開会式のようなイメージがあるため、開催都道府県の負担を最小限にしつつ、総合開会式自体は継続でいいのではないかと思います。

6 「競技の規模・参加者」について

1	<p>下線部を修文依頼</p> <p>○ 実施競技については、その採否を4年ごとに定期的に厳格な検証・評価の下、競技選定を行っているが、若者の興味があるアーバンスポーツやeスポーツなど新たな競技の実施や新たな年齢区分の設定など既存の選定対象競技に捉われずに、開催都道府県の意向もふまえて検討することが望ましい。</p> <p>○ しかしながら、参加者数と開催競技数については、大会の運営及び開催経費と密接に関連するものであることから、スポーツ振興と開催自治体の負担軽減のバランスを図る観点からりながら、大会の肥大化抑制スリム化に向け、全国知事会と継続的に協議を行っていくことが必要である。</p>
2	この内容で良いと思います。
3	<p>競技の規模については、国内最高水準の競技を魅せることで、魅力や観客の増加を図るためには、現行規模での実施が望ましい。</p> <p>する・みる・ささえる各対象者の活性化に向けて、アーバンスポーツやeスポーツへの取組は新たな大会の魅力増加に向けて進めるべき。</p>
4	参加者の規模を増やす方向は今までの話し合いから少しイメージできないと感じています。競技についてはやはりその時代の流れに応じて検討していく必要はあるかと思います。

7 「負担軽減」について

1	<p>下線部を修文依頼</p> <p>③ 式典は、新たな大会の理念に基づき、屋内開催(文化施設を含む)を可能とすることや運営を簡素化するなど、開催都道府県の裁量を認めるよう見直しを図る(項目5)</p> <p>④ 図記⑦の取組の活用により、開催都道府県の事務負担を軽減しつつ、JSPOが開催地と連携し主体となり、入場料の徴収や企業協賛制度の見直しにより新たな財源を確保</p> <p>⑤ 略)</p> <p>⑥ 略)</p> <p>⑦ 略)</p> <p>○ ※本提言の実現により大会の魅力が向上するとともに大会開催地開催都道府県及び開催市町村の負担軽減につながっていくのではないかと考えられるが、引き続き全国知事会等の関係者の声と向き合い真摯に、自治体の負担軽減について協議することを要請する。その際、大会運営費等開催地が負担している経費の負担の在り方も含め、全国知事会「3巡目国スポの見直しに関する考え方」も勘案すること。</p>
2	<p>事務負担は、会場地都市自治体においても大きなものとなっており、その軽減に当たっては開催都道府県のみならず、会場地都市自治体も含めて検討すること。</p> <p>また、JSPOが大会開催準備や地域スポーツの推進に関するノウハウを提供する機関(組織)を構築することだけに留まらず、多くの人材が必要となる大会の開催に対し、人的支援の体制整備についても検討することが必要である。</p>
3	この内容で良いと思います。
4	収入アップに向けては、企業をもっと巻き込むことで、協賛費のみならず、話題作りや参加する仲間づくりの面でもより活性化すると考える。
5	<p>負担軽減につながる新たな収益要素として、冬季競技を含む競技会場の固定化(聖地化)の施設整備を行う自治体に対しては、新たな「スポーツ振興くじ助成」の活用に加え、ふるさと納税の導入の検討してはどうか。</p> <p>ふるさと納税者には、開会式における入場行進、エンタテインメント鑑賞権利や地域産品を贈呈するなど大会や開催地域の価値を活用する。</p>

6	協賛制度の見直しや、国の負担を増やすなど、都道府県の費用の負担を減らしていく工夫は絶対条件だと思います。都道府県によっては、他県の協力を得た上で開催もそれぞれの同意とWin-Winの関係であれば全く問題ないと思います。
7	資金協力でクラウドファンディングを活用するのは可能か？
8	7.負担軽減の2つ目の○以下の①～⑦に以下追加お願いできないでしょうか。 ⑧早期敗退に伴うキャンセル料の取り扱いについては、受入宿泊施設側にも配慮し見直しを図る。 理由:滋賀大会では制度見直しを図っていただいたものの、早期敗退時に1泊分のキャンセルしか頂けないとなると、宿泊施設側の経営上大きな損害が発生し、今後、各都道府県において国スポの選手団等の受入自体が難しくなってしまうことが考えられるため。

8 「関連事項」について

1	下線部を修文依頼 (2)大会の見直しの時期 上記1、3、4、5に記載の内容をはじめ、複雑な手続きや巨額の費用投入無くして実現可能な見直しは、主催者間の合意のもとで、2036年の大会を待たずに前倒しで対応できるものとする。
2	この内容で良いと思います。
3	トップアスリートのパフォーマンス発揮と開催地の負担のバランスは、トップアスリートのパフォーマンス発揮により、有料の観客が増え開催地の負担が減るとも言える。 障害者スポーツ大会や全国中学校体育大会や全国高等学校総合体育大会との連携はスポーツの多様性(健康のためにスポーツをする人・競技参加・健全な発育等)の要件をすべて満たすので、聖地化やブロック開催においても開催日程を調整しながら実施すべき。特に青少年のスポーツ大会は、生徒数の減少・クラブ化・教職員の労務負担等により、存続が危惧されているため。 他大会との連動により、大会の収斂につながると経費低減にも寄与する可能性がある。
4	変えた方がいい点は決定後すぐにでも変えた方がいいの思います。
5	数多くの大会は競技者自身のモチベーションにも繋がるので減らすことがないようお願いしたい。
6	メディアの活用という項目が必要だと思います。オリンピックと同様、テレビまたはその他の媒体でスポーツを観戦することにより、多くの視聴者がスポーツの感動を感じることができます。例えば聖地化により、放送機材の設定も楽になりますでしょうし、なによりも現在全く放送されていないことにより、国スポが開催されていることさえ知らない国民が大多数であるという状況を打破できます。近年は駅伝ブームで多くの駅伝がリアルタイムで放送されています。そしてこれらの競技をテレビで見る子供たちが将来自分もアスリートになりたいという気持ちを抱ききっかけにもなります。MLBでの大谷選手の活躍、そしてNBAでの八村選手の活躍も我々はテレビ見ることができます。なんとしてでもメディアの協力は必要であり、「関連事項」ではなく、独立の項目として「提言」するべきだと思います。

■ 「その他、全体」について

1	全体的にまとまっていて、読みやすかったです。 これまでの国体との相違点が、今後、お示しできると新しい感が出てくると思いました。 作成等、お疲れさまでした。
2	「大会の理念」 国民にとってのスポーツの祭典を目指すことに何らの異議はございません。 一方で国民が納得し、支持する姿は単に一過性で地域中心に盛り上がるのではなく、大会開催が将来に向けた地域のレガシーとなり、国全体に持続的に波及していくことである。そのためには、多様な事情や希望を抱く開催都道府県・地域の主体性を最優先させ、国はこれをバックアップする新たな仕組みを目指すべきであると考えます。 「全国障害者スポーツ大会」 同大会は全国各地域から多くの障がい者アスリートが多くのスタッフに支えられ自ら集結し、パラスポーツをテーマに障がいの有無に関わらず、多くの関係者が共に創り出す共生社会の一舞台であります。アスリートの多くは移動の制約、身体上の制約等、開催側や派遣元(選手団)が個別事情を考慮せねばならない点が数多くあり、国スポの見直しがかえってマイナスの影響とならない様、事情を理解の上、検討を進めていただきたいと考えます。 ※ 本題の具体的な議論に入る前に貴協会と当方で双方の大会の開催方法等について意見交換をさせていただく機会を設けていただくと有難いです。

3	<p>拝見しました。トップアスリートに配慮する意見も加えてくださり、ありがとうございました。これからも宜しくお願いします。</p>
4	<p>選手のふるさと制度をしっかりと定めてほしいです。やはり縁もゆかりもない方が国スポだけのためにとその都道府県から出場するのは違和感があります。もしそういったシステムも必要であれば、ゴールドカードのような形で、各競技何名までと限定して特別枠を作ってください。そのあたりをもっと明確にしないと大会理念から離れていく可能性があると思います。</p>
5	<p>【全体を纏めて回答いたします】 これまでの議論がバランスよく取り纏められていると思います。まずは事務局の皆さんに感謝いたします。</p> <p>大会の理念(根本原則)を明示し、その実現に向けた具体的な方策(提言案)については、概ね賛成します。しかしながら、個別競技での都道府県対抗は当然あるべきとして、総合成績については、列記されている課題の解決が果たしてできるのか疑問が残ります。特に「競技結果以外の要素を得点化する」考えに関しては、より複雑になり現実的ではないように受け止めました。広く納得感のある総合表彰が出来ないのであれば、総合表彰を実施しない選択肢もあるのではないのでしょうか。</p> <p>何れにしろ、開催主催者間での協議が、毎回重要となります。開催都道府県の裁量(判断)が地方創生・まちづくり(社会・経済含む大局的なもの)に繋がるためには、国や競技団体との調整役を務める「JSPO」の組織運営能力が一層求められのだと思います。スポーツ界の一員としてご協力できることがあれば、対応したいと思います。</p>